

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	My Stepジュニア都島教室		
○保護者評価実施期間	R8年2月1日		R8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	R8年2月1日		R8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づいた支援を、職員間で共有しながら実施していること。	アセスメントや日々の観察、記録を踏まえて個別支援計画を作成し、支援開始前後の打合せや情報共有を通じて、計画に沿った支援の実施に努めている。	今後もモニタリングや記録の活用を継続し、こどもの発達状況や支援ニーズに応じた支援内容の見直しを丁寧に行っていく。
2	学習支援を中心としながら、落ち着いて活動できる支援環境を整えていること。	利用児童の状況に応じて支援環境や座席配置の調整を行い、子どもが安心して学習や活動に取り組めるよう配慮している。	備品や環境設定について継続的に見直しを行い、個々の子どもにとってより安定した姿勢保持や活動参加につながる環境整備を進めていく。
3	安全管理や記録、情報共有など、事業運営の基本的な体制が整っていること。	支援記録の作成、事故防止や安全面への配慮、個人情報の管理等について、日常的に確認しながら支援を行っている。	安全計画や各種計画の見直しを進め、職員間での周知と共通理解を深めながら、より安定した支援体制の維持に努めている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置や支援体制について、時間帯や場面によって課題がみられること。	利用状況や支援内容によっては、十分な見守りや個別対応のための人員確保が必要となる場面がある。	利用実態に応じた職員配置の見直しや役割分担の整理を行い、安定した支援体制を確保できるよう努める。
2	アセスメントや一部の専門用語・支援内容について、職員間で理解に差がみられる点。	「標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメント」などの用語や考え方について、十分に共有されていない可能性がある。	アセスメントの方法や用語の定義について、職員会議や研修等で共有し、支援の考え方の共通理解を図る。
3	地域交流や一部の支援項目について、事業所の実態に即した整理が十分でない点。	学習支援を中心とした事業形態であるため、交流機会や食事提供など、実施機会の少ない項目について判断や整理が分かれやすい。	事業所の支援実態に応じて、実施項目と該当しにくい項目を整理し、必要に応じて計画や説明内容を見直していく。